

北山ふれあい企画通信

令和3年12月吉日
ふれあい企画通信第4号
育友会ふれあい企画部
部長 田中 教正

お礼のあいさつ

日頃より育友会活動に対する温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
本年度は「北山にしかないもの」「北山でしか体験できないもの」を活動の中心に、「サマーキャンプ」「冬の北山まつり」をコロナ禍ではありましたが、時間を短縮し行いました。

夏の「サマーキャンプ」では川遊び、カヌー体験、冬の「北山まつり」では門松づくりを行いました。さまざまな制限がある中、児童生徒のみんなが助け合い協力し、輝いているのを見ると、開催できてよかったと思います。

新型コロナ・変異株が終息し、児童生徒と地域の皆様、職員・保護者が一同に会し、笑顔で温かい気持ちになれることを願って、これからも「ふるさと北山」をもっと好きになってほしい、そんな思いを込めてふれあい企画活動に取り組みたいと考えていますので、これまで同様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

ふれあい企画部部长 田中 教正



【ふれあい事務局より】

「コロナ禍」という言葉にも、マスク着用にも慣れてきた令和3年度。対策をとりながら持続可能な取組とは何かを探り続けています。今年度は夏の「サマーキャンプ」ではカヌー体験、「冬まつり」では「門松づくり」と厳しい状況下でもその時に応じた最善策をとってきました。案は、昨年度までの経験に基づいたふれあい企画部員のみなさまの意見から企画されました。部内では「子どもは何が喜ぶだろうか」「親子で楽しい思い出をつくりたい」等の声が聞かれ、主役はいつでも『北山校のこどもたち』でした。

本来であれば、体験活動満載のキャンプ、地域の方々の歓声が聞こえてきそうな餅つきを行いたところですが、状況を鑑みますと、それでもこの2大行事が、盛大に滞りなく実施できたことに感謝しなければなりません。

夏にはプールサイドから思わずプールに入り、子どもたちと一艇の^{てい}カヌーに乗り込んで一緒に漕いでおられたお父さんお母さんの笑顔。冬には北山校周辺の山々の材料を前に子どもたちと会話を重ねながら制作活動に没頭しておられた一生懸命の親子の顔。貴重な、あたたかいこの体験は子どもたちの宝物です。協力いただいたふれあい企画部の方、講師を務めていただいた方、材料収集に協力いただいた方、子どもたちを日ごろから支え励ましてくださるすべての方々に感謝いたします。

北山校 副校長 西山恵美